

資 料

目 次

議案第1号資料

ヤマドリ捕獲数、目撃状況 1

利害関係人への意見聴取結果（ヤマドリの雄の捕獲制限） 4

議案第2号資料

キツネの目撃情報、目撃数 5

利害関係人への意見聴取結果（キツネの捕獲制限） 8

参考資料

「千葉県レッドデータブック」における
ヤマドリ・キツネの評価について 9

規程関係

千葉県環境審議会運営規程

千葉県環境審議会鳥獣部会運営規程

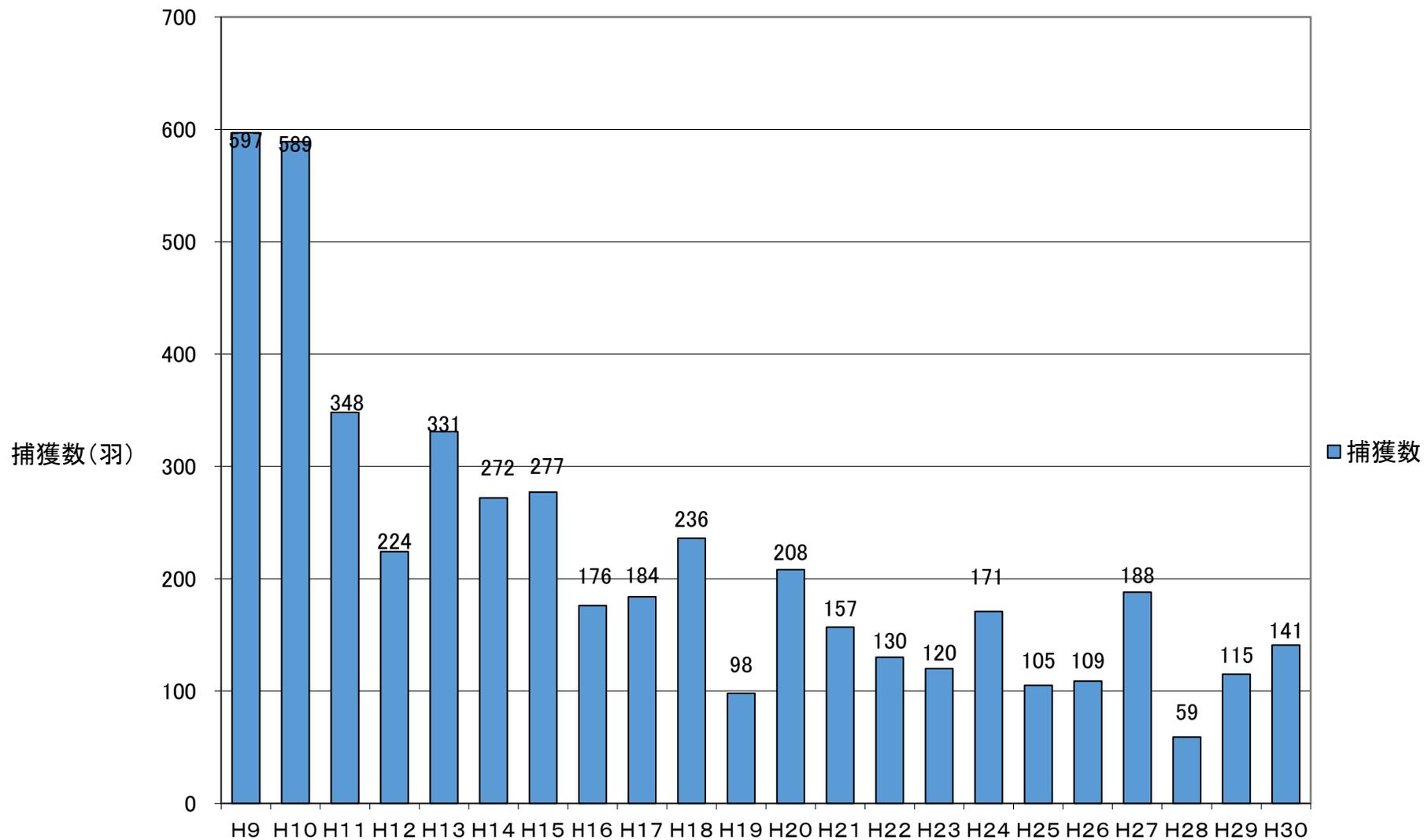


図1 ヤマドリの捕獲数 (狩猟期間中)

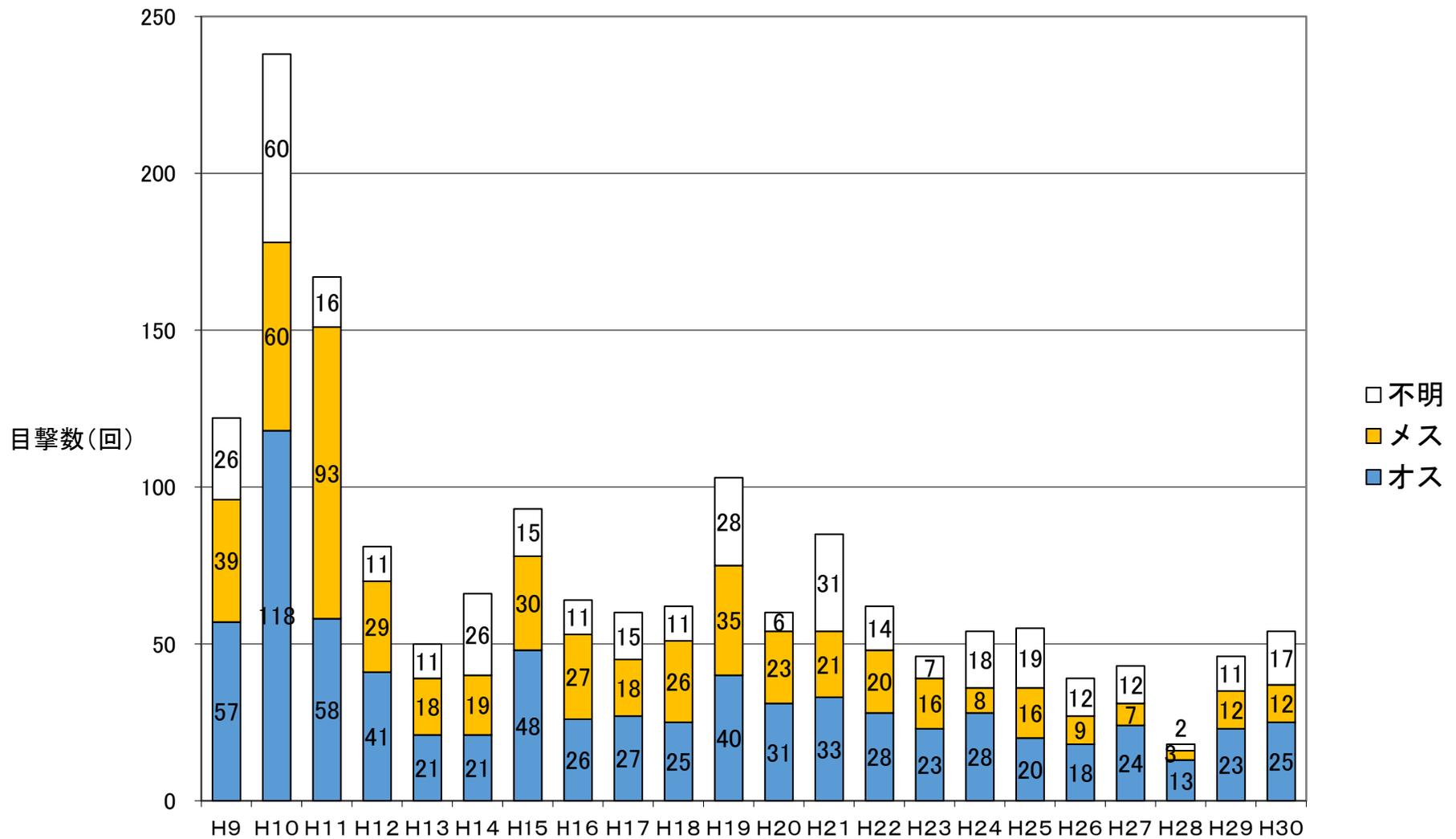


図2 ヤマドリを目撃状況（初猟日）

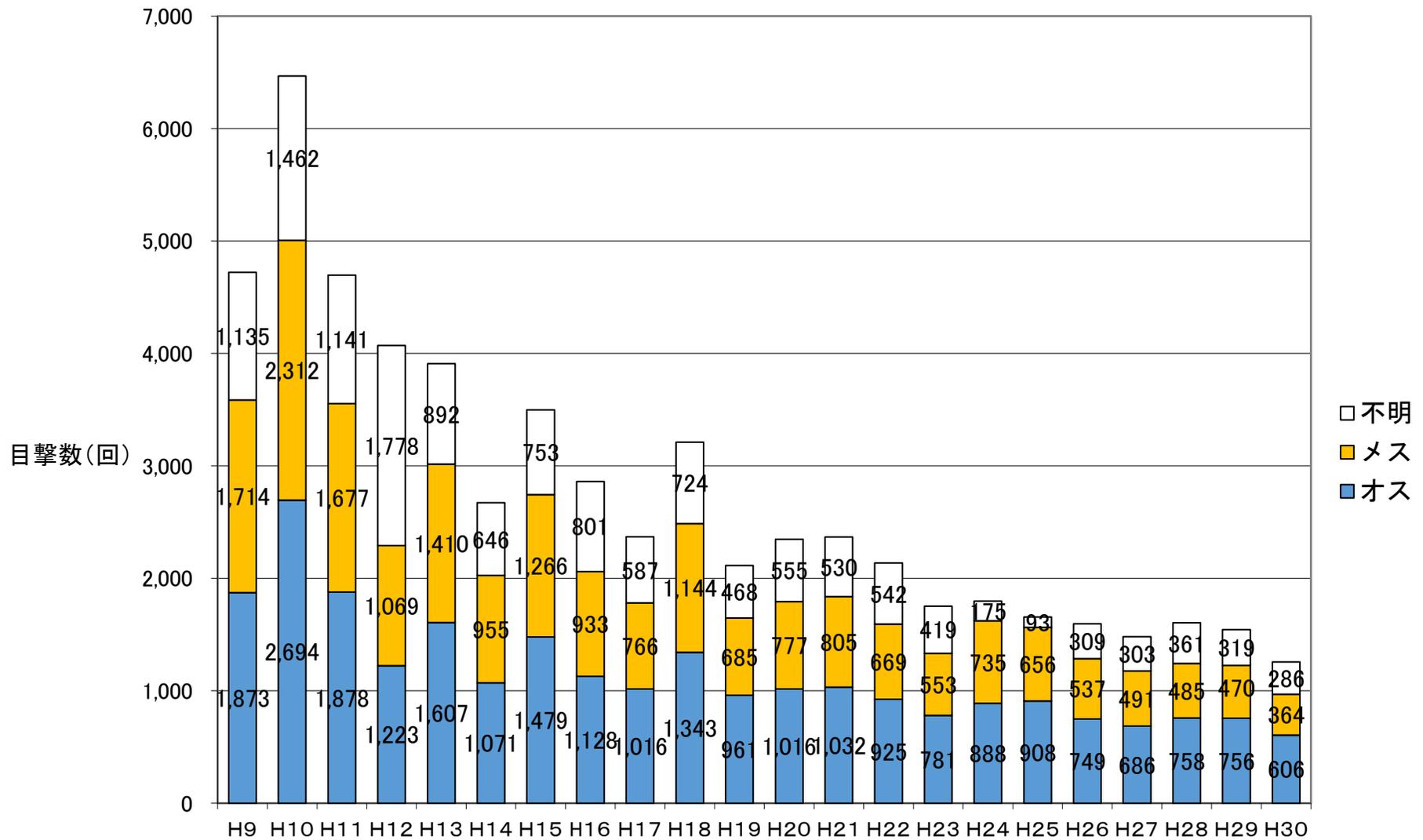


図3 ヤマドリの目撃状況（狩猟期間中）

利害関係人への意見聴取結果（ヤマドリの雄の捕獲制限）

鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律第12条第6項により準用する第7条第5項の規定により、捕獲制限を行うにあたり利害関係人への意見聴取を行った結果は、以下のとおりであった。

1 利害関係人

	職名	氏名
1	千葉県森林組合連合会 代表理事会長	酒井 茂英
2	千葉県農業協同組合中央会 会長	林 茂壽
3	関東森林管理局長（千葉森林管理事務所）	—
4	一般社団法人千葉県猟友会 会長	鈴木 理之
5	千葉県自然保護連合 代表	牛野 くみ子
6	日本野鳥の会千葉県 保護委員会	小島 久佳

2 照会事項

平成30年度狩猟期をもって終了したヤマドリの雄の捕獲制限（1月16日から2月15日までを捕獲禁止とする）の期間を5年間延長することについて

3 賛否

賛成 6名（うち1名は条件付きで賛成）

反対 0名

4 意見等

- ・生息数を回復するのに必要な措置のため。（千葉県森林組合連合会）
- ・日本にのみ生息しているヤマドリは減少が懸念されており、これ以上減少しないよう捕獲制限の延長は望ましい。（千葉県自然保護連合）
- ・放鳥による増殖を図っているが、その数が増加しているとは思えない。県レッドリスト掲載の種であり、本来ならば捕獲禁止とすべきである。

（日本野鳥の会千葉県）

- ・鳥獣被害の影響が出ないことを条件に賛成。（千葉県農業協同組合中央会）

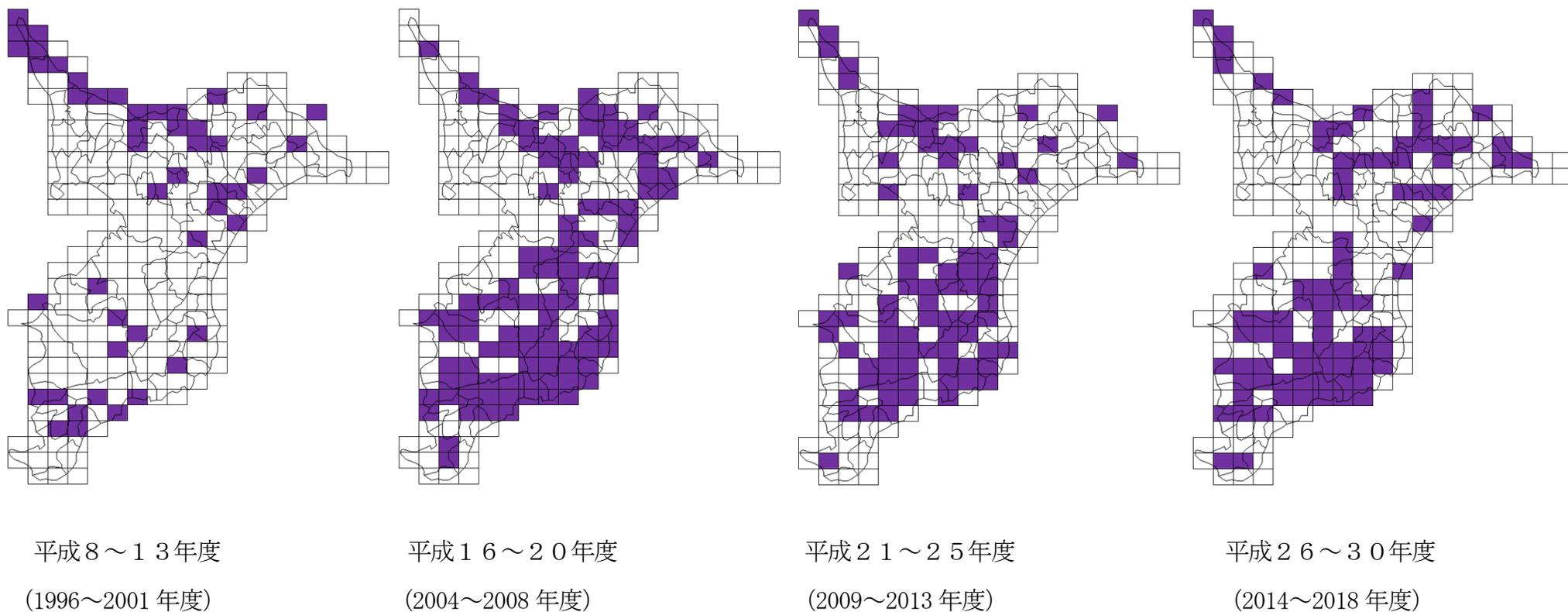


図4 千葉県におけるキツネの目撃場所の変遷

千葉県内においてキツネの目撃情報が得られたメッシュ（5kmメッシュ）について着色した。また、平成16年度以降の図については、狩猟実態調査に基づくキツネの目撃情報をもとに作成した。なお、平成8～13年度の情報については、環境省第6回自然環境保全基礎調査のデータを引用した。

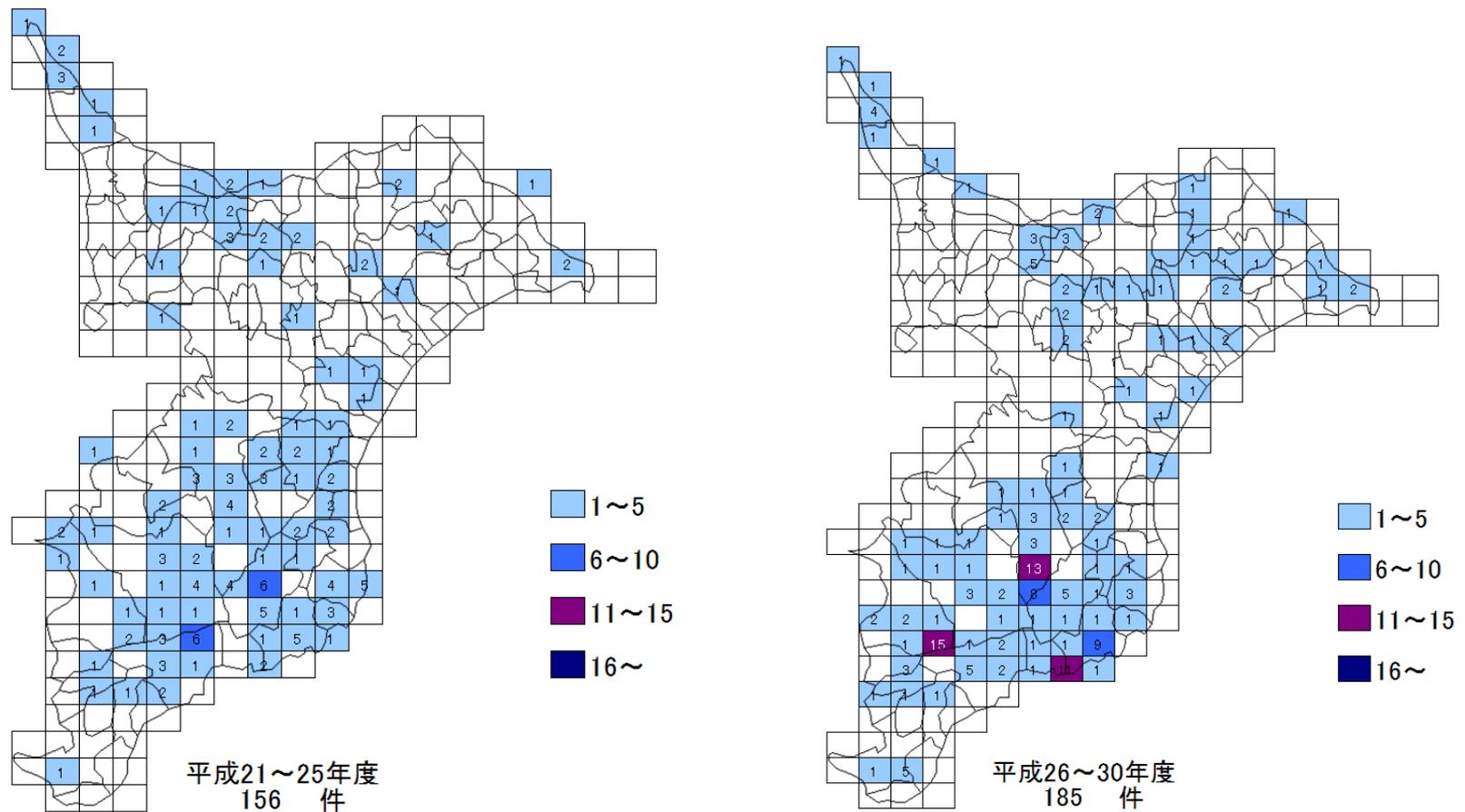


図5 千葉県におけるキツネの目撃数

平成21～25年度、及び平成26～30年度の狩猟期に実施された狩猟実態調査において、キツネの目撃情報があったメッシュを色分けした。なお、枠内の数字は各期間中のキツネの目撃数の合計数を表す。

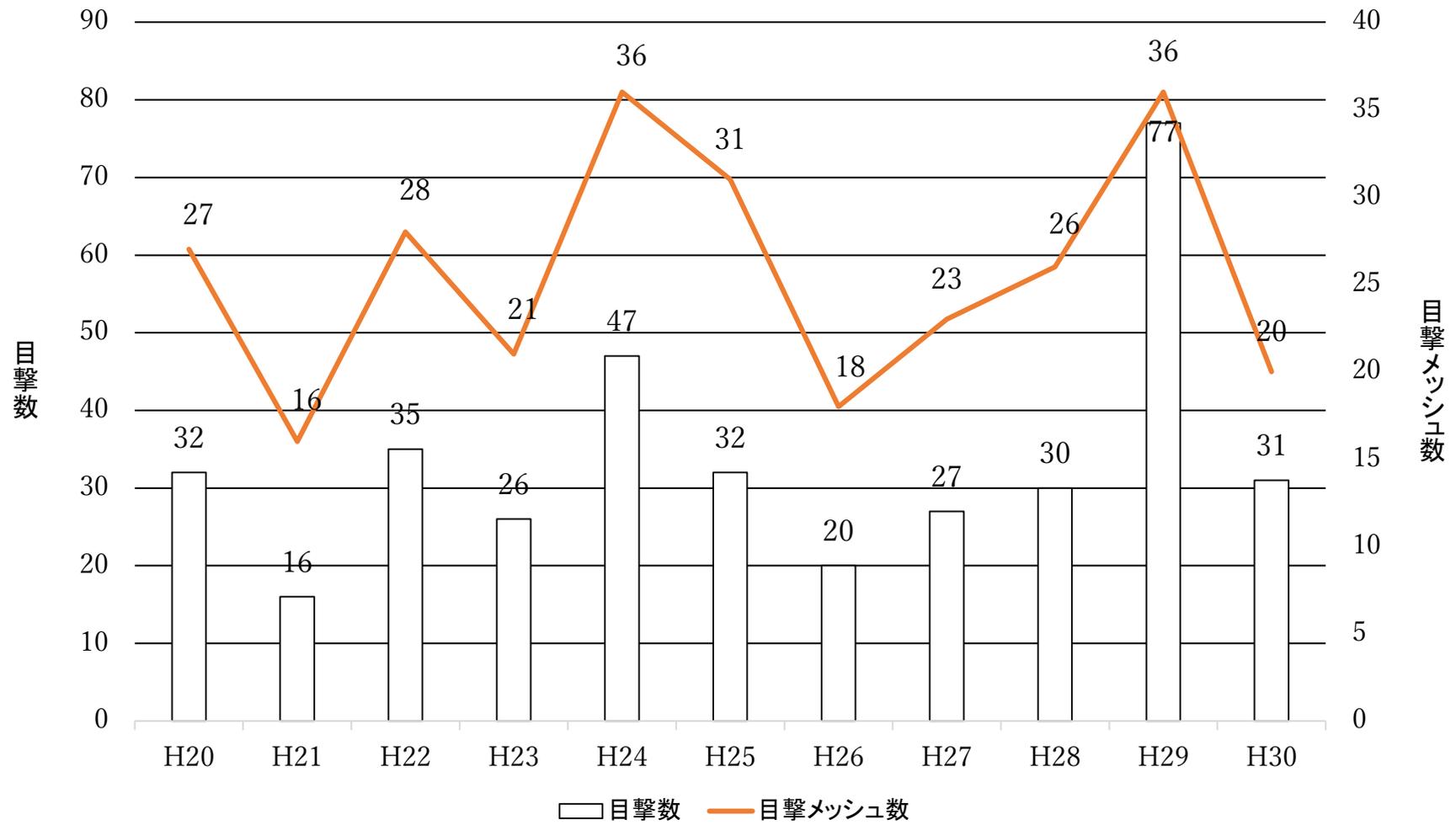


図6 キツネの目撃数
メッシュ：県内を約5キロ×5キロで区切ったもの

利害関係人への意見聴取結果（キツネの捕獲制限）

鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律第12条第6項により準用する第7条第5項の規定により、捕獲制限を行うにあたり利害関係人への意見聴取を行った結果は、以下のとおりであった。

1 利害関係人

	職 名	氏 名
1	千葉県森林組合連合会 代表理事会長	酒 井 茂 英
2	千葉県農業協同組合中央会 会長	林 茂 壽
3	関東森林管理局長（千葉森林管理事務所）	—
4	一般社団法人千葉県猟友会 会長	鈴 木 理 之
5	千葉県自然保護連合 代表	牛 野 くみ子
6	日本野鳥の会千葉県 保護委員会	小 島 久 佳

2 照会事項

令和元年10月31日をもって終了するキツネの捕獲禁止期間を、5年間延長することについて

3 賛否

賛成 6名（うち1名は条件付きで賛成）

反対 0名

4 意見等

- ・生息地域の維持・拡大に必要な措置である。（千葉県森林組合連合会）
- ・生息密度が低く、数頭の捕獲であっても地域個体群の維持に大きな影響を与えることから、捕獲制限の延長に賛成。（千葉県自然保護連合）
- ・希少哺乳類であり、農作物に被害を与えるげっ歯類の捕食者でもあり、今後の動向を含め捕獲対象から除外すべき種である。（日本野鳥の会千葉県）
- ・鳥獣被害の影響が出ないことを条件に賛成。（千葉県農業協同組合中央会）

「千葉県レッドデータブック」における ヤマドリ・キツネの評価について

ヤマドリとキツネは、「千葉県レッドデータブック動物編 2011 年版」ではランク C（要保護生物）及びランク B（重要保護生物）だったが、2019 年 3 月の改訂でもランクに変更はないため、今後も保護の継続が必要である。

1 千葉県レッドデータブック

千葉県レッドデータブックは、種ごとに生物学的観点に基づくデータから絶滅の危険性を評価し、保護の視点を加味したランクをつけ、分布や保護対策などを記述したもの。

（レッドデータブックのランク）

- A：最重要保護生物（個体数が極めて少ない）
- B：重要保護生物（個体数がかなり少ない）
- C：要保護生物（個体数が少ない）
- D：一般保護生物（個体数が少なく注意が必要）

2 ヤマドリとキツネのランク

	千葉県レッドデータブック 2011 年改訂版	千葉県レッドリスト 2019 年改訂版
ヤマドリ	C	C
キツネ	B	B

3 評価の理由

（ヤマドリ）

ヤマドリは代表的な狩猟鳥だが、県内では 1970 年までに乱獲と環境悪化により個体数が減少している（千葉県 1976）。

2011 年以降に関しては、千葉県野鳥の会の会報などで確認できる観察記録において、ヤマドリはほとんど確認されておらず、観察例は極めて少ない。もしヤマドリの個体数が回復傾向にあるならば、観察例も増加すると推定されるが、現況では極めて少ないため、回復傾向はみられず、ランク C の評価を継続した。

（キツネ）

アカギツネは、千葉県においては戦前から生息数は少ないとされており、時代とともにさらに減少したと考えられていることから（落合ほか 1999）、ランク B の重要保護生物に選定された。

その後も、千葉県立中央博物館に寄せられるアカギツネの情報は、年間 2～3 件程度という状況が続いている。情報源はロードキル、センサーカメラ等による撮影など。なお、生息情報は利根川沿いの県北地域から得られたもので、房総丘陵を含む県南地域では数年に 1 度の生息情報しか得られていないことから、生息数が依然として非常に少なく、ランク B の評価を継続した。